



TITLE:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 62

AUTHOR(S):

CITATION:

京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 No. 62. 京都大学瀬戸臨海実験所振興会水族館月報 1957, 62: 43-48

ISSUE DATE:

1957-11-05

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186805>

RIGHT:

京都大学瀬戸臨海実験所振興會

水族館月報

No. 62

1957.10月(11月5日)

録 事

毎月、入館者数は前年度より増えているのが近頃の例であつたが、今月になって始めて減少した。

堀海浦(築屋敷)に振興会の手で建てる予定の職員宿舎は再三の設計換主により、始めのもくろみよりも次第にふえて、建坪69.949坪の平屋建と決定した。目下これが見積書提出を依頼中であるが、整地・配電・給排水等の付帯工事費を加えると、大体総経費350万円位の工事となる見込みである。

水族館改築案については山本氏より3案も提出されたので、9-10両月にわたり各委員の間に回覧した上、施設上の実行的面において検討した結果、大体の綜合案を設計依頼者の手元に提出した。

奨学研究生高松史朗君は9月中より淡水研の白石芳一技官と協力して琵琶湖での稚鮎の流下と湖中での垂直分布を調査して9日再び来所。中旬より富田川での鮎の産卵が始まった模様なので、22日船を運航して富田川口で環境調査を実施した。爾后2-3日おきには富田川口に出かけて、稚鮎の採集に努めている。今のところ15分間プランクトンネットを曳くと7-8ミリの稚鮎が300-500個体位かかるという。

原田研究員は東京都立大学と教育大学で開かれた生態学のシンポジウムに出席のため15日より30日まで上京した。

内海委員は19日より23日まで名古屋・津・尾鷲方面に旅行した。

業 務 概 況

◎ 10月の入場者数

区 分	水族館発売数		明光バス発売数		合 計	
	本月分計	累 計	本月分計	累 計	本月分計	累 計
大 人	8662	54497	20561	113093	29223	167590
小 人	255	5312	107	3642	362	8956
団 体	18228	89044	—	—	18228	89044
合 計	27145	148853	20668	116735	47813	265588
無料入場者 歌碑除幕式関係者					15	1087

団 体 : 一般 220 組, 学生 48 組 計 268 組

◎ 10月の 事業収入 (今年度累計)

観覧券売上金	859,756	4,836,379
予金・積立金利息	—	345,000
雑 収 入	100	1,845
魚 类 排 下	—	19,300
計	859,856	5,202,524

◎ 10月の支出

水族館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	68,075	528,727	
会 議 費	—	70,398	
備 品 費	—	35,300	
消 耗 費	12,515	78,394	
事 業 費	56,586	364,745	
維 持 費	3,205	126,352	
其 他 諸 経 費	3,552	162,247	三所神社への祝儀他
積 立 金	174,919	986,428	
合 計	319,052	2,352,591	

実験所経費

費 目	金 額	累 計	備 考
研 究 費	30,000	60,000	内海、山路、布枕委員
奨 学 金	8,000	49,000	
備 品 費	—	171,849	
消 耗 費	—	600	
刊 行 費	—	227,795	
役 務 費	—	130,000	
合 計	38,000	639,244	

博物館経費

費 目	金 額	累 計	備 考
人 件 費	29,090	141,736	原田氏旅費他
備 品 費	3,100	26,7620	スライド購入
消 耗 費	—	6,530	
役 務 費	—	18,660	
合 計	32,190	434,546	

臨時費

摘 要	金 額	累 計	備 考
土 地 登 録 税	50,000	618,450	
合 計	50,000	618,450	

支出合計

(今年度累計)

水族館経費	319,052	2,352,591
実験所経費	38,000	639,244
博物館経費	32,190	434,546
臨時費	50,000	618,450
計	439,242	4,044,831

◎ 10月末現在高

前月からの繰越	3,113,191
今月の収入合計	859,856
今月の支出合計	439,242
現 在 高	3533805

◎ 前年度との比較

	1956	1957	増	減
入場者数	49,076	47,813	—	1,263
売上金	862,725	859,756	—	2,969
支出金	445,716	439,242	—	6,474

水族館記事

- ◎ 今月は魚が多数入槽し、種類も割合豊富であった。
- ◎ 2・3日とツノダシ2匹は死亡し、10日に1匹入槽したのも翌11日に死亡した。
- ◎ 3日アオリイカ20匹が入槽、愛嬌のある泳ぎ方でお客をよろこばせたが現在は4匹残るのみ。
- ◎ 5日約1貫目のツルグエ1匹入槽。
- ◎ ミノカサゴは5・11・16日と各1匹ずつ入槽したが2匹死亡。
- ◎ 残る3匹のハマチも6・14・20日と死亡した。
- ◎ 6日クマノミ1匹入槽、11・15日と2匹死亡した。
- ◎ 15日イトヒキアジ1匹、2貫500匁位のコバンザメ1匹入槽、19日イトヒキアジが死亡し、21日中央の大水槽をわがもの顔に泳ぎ廻っていたコバンザメも死亡した。
- ◎ 21・23日とアカウミガメの仔2匹が死亡。
- ◎ 23日 イトヒキアジ1匹入槽。
- ◎ 25日 シマイシガニ1匹死亡。
- ◎ 26日 No. 22 水槽のアカウミガメ1匹死亡。
- ◎ 試みに例年より早く保温装置を取付け、熱帯魚の死亡を阻止するため水温20℃を下る時にそなえた。
- ◎ 21日 水族館標本室のパラオ産貝類の1種が盗難にあった。
- ◎ 今月より海水取入口の水温・比重も同時に測定することにした。

博 物 館 記 事

- ◎ 山路委員の編集作成になる下記の、灯用スライド2種を山本商店より求め、備えつけた。

第13集 アサクサノリ養殖と製造 (一部カラー)

第14集 潮間帯の藻類 (カラー)

資 料

- ◎ 10月の気象 (9時観測)

南水槽室 (水温・比重はNo.25水槽)

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数 (17)	6	6	5
室 温 (°C)	$\frac{19.8 \sim 22.0}{21.4}$	$\frac{15.8 \sim 23.9}{20.3}$	$\frac{18.2 \sim 21.6}{19.7}$
水 温 (°C)	$\frac{22.49 \sim 23.13}{22.78}$	$\frac{20.69 \sim 23.31}{22.32}$	$\frac{21.20 \sim 22.42}{21.91}$
比 重 (G75)	$\frac{2436 \sim 2500}{24.64}$	$\frac{2450 \sim 25.32}{24.91}$	$\frac{25.07 \sim 25.47}{25.25}$

海水取入口

水 温 (°C)	$\frac{23.10 \sim 24.20}{23.55}$	$\frac{21.45 \sim 23.88}{23.11}$	$\frac{21.54 \sim 22.95}{22.08}$
比 重 (G75)	$\frac{24.24 \sim 25.03}{24.55}$	$\frac{24.58 \sim 25.07}{24.84}$	$\frac{24.72 \sim 25.38}{25.19}$

※ 従来は測定比重(Σ)であったが、今月からは標準比重(水温15°Cの時の比重 G15)を用いる。

来 訪 録

10月25日 桂決水族館長永国寿一氏来館。

昭和32年11月5日 (No.62)

編集兼
発行者

内海 富士夫

発行所

瀬戸内海美術会
瀬戸内海美術会
瀬戸内海美術会
(Tel. 白浜温泉515)